

8	愛知	日進市立西小学校	トミタ トモヒロ 名前 富田 友宏
分科会番号	3	分科会名	社会科教育 (小学校)

社会的事象について「なぜ」と疑問をもち、自ら学びを深めようとする子どもの育成 ～ 個別最適な学びと協働的な学びの両立を目指した社会科学習を通して ～

1 主題設定の理由

現代社会はVUCAの時代と呼ばれている。VUCAとは「予測が困難で、不確実性が高く、複雑で曖昧な状況」という意味である。このような答えが一つではない社会においては、「受け身に対応するのではなく、主体的に関わり合い、他者と協働しながら」未来を切り拓く力が求められている。この力を得るためには、個別最適な学習と、協働的な学習の一体的な充実が欠かせない。

本研究を実施した児童生徒は、素直に学びに取り組むことができる。しかし、知識を得ることで満足し、自ら新たな学びを得ようとする姿は少ない。意欲の高い児童生徒の多くは、「教えてもらう」「理解させてもらう」ことに楽しさを感じている。また、意欲の低い児童生徒の中には、知りたいという意欲を失って授業や話し合いの輪に入ることができなくなっている児童生徒も一定数いる。そこで、自らにあった課題や学習方法を選択する個別最適な学びにより、自ら学びを得ることの楽しさや、その学びを共有し合うことで生まれる自己有用感を得ることができると考える。

また、本研究を行った児童生徒は総じて人間関係は良好で、誰とでも分け隔てなく交流することができたり、自分の考えを伝え合ったりすることができる児童生徒が多い。しかし、自分の意見を伝えることだけに終始し、相手の意見に介入したり、取り入れたりする姿は見られない。そこで、協働的な学びの場面を取り入れることで、新たな考えに気付いたり、自分の考えを深めたりすることができる。と考える。

この2つの学びに共通して必要な力は、自ら学びを深めようとする姿勢である。この姿勢を育むため、自分たちで課題を設定することを大切にしたい。自分たちで課題を設定することで、より主体的に学ぶことができると考える。以上の考えを踏まえ、本主題を設定し、共同研究を行った。

2 研究の目標

(1) めざす子ども像

社会的事象に対して「なぜ」と疑問をもち、自ら学びを深めることができる子ども

(2) 研究の仮説と手だて

【仮説Ⅰ】 それぞれの単元の中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」を両立させることで、より深い学びにつなげることができるであろう。

【仮説Ⅱ】 子どもたちの疑問を出発点に授業づくりを行うことで、子どもたちはより学びに向かう姿勢をもって取り組むことができるであろう。

本研究における手だては以下の4つである。

【手だてⅠー1】 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた単元計画の作成

【手だてⅠー2】 深まりの一手 小学校5年生地理「米づくりのさかんな地域」
小学校6年生歴史「戦国の世から天下統一へ」

《本実践における「深まりの一手」とは》

授業で得た知識・技能を活用して、さらに深い学びへと到達するための発問（問い返し）

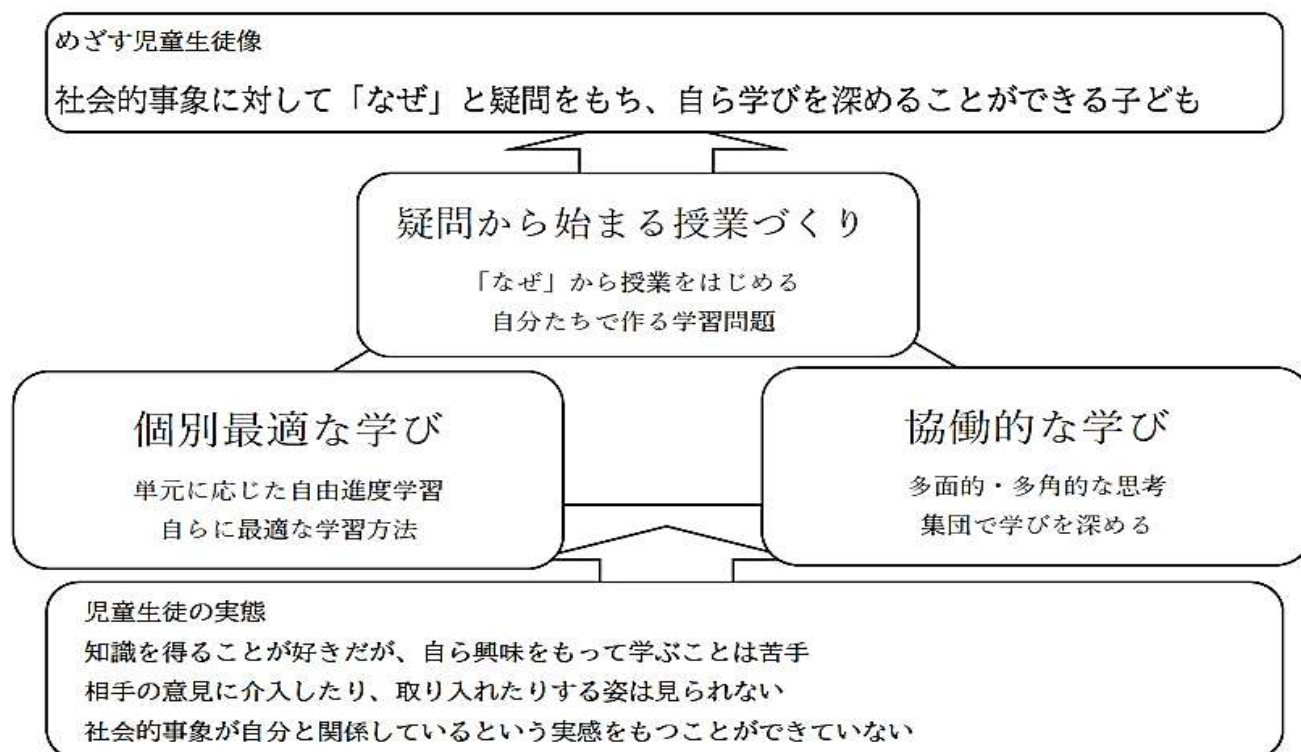
【手だてⅠー3】 ジグソー法 中学校3年生公民「現代の民主政治と社会」

《本実践における「ジグソー法」とは》

1つのテーマを深めるために必要な事象や情報を分担して個別で学習し、そこで得た成果を共有して学びを深める協働学習の設定

【手だてⅡ】 「なぜ」から始まる学習問題作り

(3) 研究構想図



3 実践の単位について

小学5年生地理	「米作りのさかんな地域」	日進市立西小学校	椎野十夢
小学6年生歴史	「戦国の世から天下統一へ」	日進市立西小学校	富田友宏
中学3年生公民	「マスメディアと世論」	長久手市立北中学校	松井望海

4 研究の実際

(1) 小学5年生地理 「米作りのさかんな地域」

ア 単元構想（9時間完了）

時数	学習活動（○本時の目当て ・児童の考え ☆指導上の留意点）	学習形態	手だて
1	○西小のコメ担当大臣として、調べたいことはどんなことだろう。 ・給食で毎日食べているお米は、どうやって作られているのだろう。 ・今、ニュースになっている米不足を解決するために、西小のコメ担当大臣としてお米についていろいろ調べていきたいな。	協働学習	手だてⅡ
2	学習問題：日本の米はどのように作られ、どんな問題を抱えているのだろう。		
3	○米はどのようにして作られているのだろう。 ○おいしい米を作るために、どんな工夫がされているのだろう。 ○米づくりには、どんな人たちが関わっているのだろう。 ○どうして今、米が買えなくなっているのだろう。 ☆4つの中から興味や疑問をもったものを1つ選び、個別学習を進める。	個別学習	手だてⅠ－1
4	○調べたことをお互いに共有しよう。 ・友達が調べたことを聞いて、お米についての理解が深まったよ。 ・米作りには、さまざまな問題があることも分かったよ。コメ担当大臣として考えなければいけないことはどんなことかな。	協働学習	手だてⅠ－1
6 7	深まりの一手：日本の米を守るために、これからの米作りはどのように進めていくといいのだろう。 ・米の生産量を増やす取組が必要になってくると思う。 ・機械を活用したスマート農業を取り入れれば、生産も楽になると思う。 ☆これまでの学習を基に、米問題を解決するための方法を議論する。	個別学習 協働学習	手だてⅠ－1 手だてⅠ－2
8 9	○日本の米作りについて分かったことを、「大臣広報」にまとめよう。 ・日本の米作りや抱える問題について、詳しく調べることができたよ。	個別学習	手だてⅠ－1

イ 実践

(ア) 子どもの興味や疑問を大切にした「学習問題」を話し合う場の設定

(単元構想1／9)【手だてⅠ－2に対応】

本単元で取り上げる米は、子どもにとって身近な食べ物であり、最近ではニュースで頻繁に取り上げられている。そこで、本単元の第1時では、米にまつわる子どもの興味や疑問を取り上げ、話し合いを通して学習問題を作る活動を行った。【資料1】は、学習問題を作る授業を行った際の板書である。米に関わる4つの興味や疑問(単元構想第2・3時のめあて参照)が挙がり、それらをまとめて「日本の米はどのように作られ、どんな問題を抱えているのだろう」という学習問題を設定した。この後の個別学習では、自分の興味や疑問に応じた学習問題を選択して調べ学習を進めるという学習形態をとった。多くの児童が自分の興味をもったテーマに沿って熱心に調べ学習やグループワークを行い、単元を通して日本の米作りについて知恵を絞って真剣に考え、議論する子どもの姿が見られた【写真1】。このことから、単元の初めに子どもの興味や疑問に応じた学習問題を設定したことは、子どもたちがより深い学びに向かうための姿勢を作るためには有効な手だてであったと考える。



【資料1】 学習問題を設定した授業の板書(単元構想第1時)



【写真1】 協働学習の様子

(イ) 深い学びへと近づくための「深まりの一手」(単元構想6／9)【手だてⅠ－2対応】

授業で得た知識・技能を活用して、さらに深い学びへと子どもたちが到達するために、「深まりの一手」(【資料2】下線部参照)を行った。授業記録(C1～3)の発言から分かるように、子どもたちは、個別学習で得た知識を発表し合う一方で、米作りの問題点も話題に挙がっていた(C4、C5)。そういった子どもの意見を取り上げ、「日本の米を守るために、これからの米作りはどのように進めていくとよいのだろう」と切り返しの発問をした。この発問をきっかけとして、日本の米作りの現状を踏まえ、これまでの授業で得た知識を生かして、日本の今後の米作りについて、より深く考えることができた。

(2) 小学6年生歴史「戦国の世と天下統一」

ア 単元構想(6時間完了)

- T : 「日本の米はどのように作られ、どんな問題を抱えているのだろう。」という学習問題について調べたことを教えてください。
- C1 : 田植えは5月ごろで、収穫は9月ごろに行われることが多いそうです。
- C2 : 機械を使って、生産性を高める工夫をしています。
- C3 : 米作りは一人で行うのではなく、JAの人たちと協力して行っています。
- (中略)
- C4 : 最近では、生産調整により、米の生産量が減っているようです。
- C5 : C4に質問で、今の日本では、米が不足しているのに、生産量を減らしてもいいのかなと思いました。
- T : 米作りには、農家の方のいろいろな工夫がある一方で、問題も抱えていることが分かったね。日本の米を守るために、これからの米作りはどのように進めていくとよいのだろう。

【資料2】 単元構想(6／9) 授業記録

時数	学習活動（○本時の目当て ・児童の考え ☆指導上の留意点）	学習形態	手だて
1	○長篠の戦いがあったころの世の中は、どのような様子だったのでしょうか。 ・織田、徳川軍は、ヨーロッパから来た鉄砲を使って戦っているよ。 ・織田信長や豊臣秀吉は天下統一に向け、どのようなことをしたのだろう。	協働学習	手だてⅡ
2	○戦国の世の変化について話し合い、学習問題を作ろう。 ☆前時の振り返りを基に、学習問題を作らせ、学習計画を立てさせる。 ・1600年ごろの大阪城は争いがなく、社会は安定した様子に見えるよ。		
学習問題：織田信長、豊臣秀吉は、どのようにして戦国の世をおさめていったのでしょうか。			

3	○戦国の世では、日本とヨーロッパにはどのような関わりがあったのでしょうか。 ・戦国大名は戦いを有利に進めるための武器をヨーロッパから得ようとしたと思う。 ・貿易で今までなかったものを取り入れることで栄えると思う。	協働学習	手だてⅠ－１
4	○織田信長は、天下統一をするために、どのようなことを行ったのでしょうか。 ☆調べたことをまとめる方法はタブレット端末かノートを選ばせる。 ・楽市・楽座をすることで商業や工業を盛んにしたよ。 ・あえて京都に近い場所である安土に城を築いたと思う。	個別学習	手だてⅠ－１
5	○豊臣秀吉は、天下統一をするために、どのようなことを行ったのでしょうか。 ☆調べたことをまとめる方法はタブレット端末かノートを選ばせる。 ・検地と刀狩を行うことで、身分が区別されたから武士が世の中を支配する仕組みが整えられたと思う。 ・物資の流れをつくり、金や銀の鉱山を支配することで得た財力が天下統一に役立ったと思う。	個別学習	手だてⅠ－１
6	深まりの一手：天下の統一により貢献したのは、織田信長と豊臣秀吉のどちらでしょうか。 ・鉄砲を戦いに取り入れ、室町幕府を倒し、戦国大名として勢力を拡大していった織田信長の方が天下統一に貢献したと思う。 ・検地と刀狩によって武士と百姓や町人の身分を区別し、武士が世の中を支配する仕組みを作った秀吉の方が天下統一に貢献したと思う。	協働学習 個別学習	手だてⅠ－２

イ 実践

(ア) 児童生徒の興味や疑問を大切に「学習問題」の設定【手だてⅡに対応】

本単元では、第１時に長篠合戦図屏風を児童に提示し、大勢の武士が分かれて戦っていることや戦い方について読み取らせた。どこかで耳にしたことのある織田信長や豊臣秀吉が資料に登場するため、児童は意欲的に読み取りを行っていた。また、室町幕府が衰えたあと戦国大名とよばれる各地の武将が自分の支配する土地を争う戦国の世が１００年続き、統一に大きな力を発揮したのは織田信長や豊臣秀吉であることを学習した。第１時の児童の振り返りには、「織田信長と豊臣秀吉はどのように中心となって戦国の世で力をもっていたか」や「どのように天下統一を進めていくのかを調べたい」といったものがあつた。

第２時では、児童がそれらの振り返りを共有し、自らの興味や疑問を基に「織田信長、豊臣秀吉は、どのようにして戦国の世をおさめていったのでしょうか」という学習問題を設定した。また、その後の学習計画を立てる際には、「なぜポルトガル人は日本に来て鉄砲を伝えたのか」という振り返りから、日本とヨーロッパとの関わりについて学習する時間も設定した。その後、学習を進める際にも自分が分からなかったことについて教師や他の児童に質問する様子も見られ、自分の興味があることや疑問に感じたことについて主体的に学習する様子が見られた。

(イ) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を取り入れた単元構想【手だてⅠ－１に対応】

第２時に立てた学習計画を基に、第４時には織田信長について、第５時には豊臣秀吉について調べ学習を行った【写真２】。児童は織田信長や豊臣秀吉が天下統一のために行ったことについて教科書、資料集、インターネットによる検索、本などそれぞれが自分に合った方法で調べ、ノートかタブレット端末のどちらかを選択して調べたことをまとめた。

第６時には、それぞれが調べたことを基に協働的な学習を行った。その際、集団で学びを深めるために、それぞれが調べた材料を基に、イの(ウ)の深まりの一手について考えた。



【写真２】 調べ学習をする児童

(ウ) 深い学びへと近づけるための「深まりの一手」(単元構想６／６)【手だてⅠ－２に対応】

第６時には、今まで習得してきた知識を活用し、より深い学びへとつなげるために、「深まりの一手」として「天下の統一により貢献したのは、織田信長と豊臣秀吉のどちらでしょうか」という問いを提示した。児童は、まず調べてきたことを基に、どちらが天下の統一により貢献したのかを個人で考えた。次に、意見が違う児童や同じ意見だがそのように考える理由が異なる児童と意見を伝え合い、疑問に感じたところやもっと知りたいと感じたことについて質問し合った。

最後に意見の交流を経て、再度どちらが天下の統一により貢献したのかを個人で考えた。

話し合った前後の意見を比較すると、途中で意見を変えた児童や意見が同じでも新たな側面に気付くことができた児童がいた。そのことから意見を伝え合うことで、新しい側面に気付いたり、考えをより深めたりすることができたのではないかと考える。

(3) 中学3年生公民「マスメディアと世論」

ア 子どもたちが協働的かつ補完的に学習を進めることができる話し合い方法の工夫【手だてⅠ－3に対応】

ジグソー法とはある課題について、グループ内で役割分担をして調べ学習や課題探究を行った上で、自分が調べた内容を教え合う学習活動である。調べ学習や課題探究の過程では、同じテーマや課題をもつ生徒と交流を行い、多様な意見に触れたり、自身の意見を検討し直したりする機会を設定する。「マスメディアと世論」の実践では、4つの新聞社のネット記事を用意し、そのスタンスをまとめる活動を行った。まず、ネット記事を読んで自分の考えをワークシートに記入を行った後に、同じ記事を担当する生徒同士で交流を行う。その後、元の

議院内閣制と大統領制の長所と短所を考えて、日本はどちらの方がいいか考えよう。	
議院内閣制長所	議院内閣制短所
1. 権限が明確で、責任が明確で、国民がわかりやすい。	
2. 権限が明確で、責任が明確で、国民がわかりやすい。	
大統領制長所	大統領制短所
1. 権限が明確で、責任が明確で、国民がわかりやすい。	
2. 権限が明確で、責任が明確で、国民がわかりやすい。	

【資料3】 ワークシートの記述①
グループでそれぞれ担当した役割について気になる表現等を交流し、新聞社のスタンスを図示してまとめた。同じ記事を担当する生徒での交流では、新しい発見を得たり、考えを変容させたりする生徒が見られた。また、自身の意見の妥当性を確認することができ、元のグループでの交流において、より自信をもって意見交流に臨むことができていた。なお、本授業ではスタンスの違いを実感することで、公正な世論形成と判断力が民主主義において重要であることを学んだ。

「行政の仕組みと内閣」の実践では、議院内閣制と大統領制のどちらが日本にあるかを判断するためにそれぞれの長所と短所を調べた【資料3】。上記の実践と同じように、自分で調べた後に担当者で集まって意見交流を行っている。

調べ学習に苦手意識をもっている生徒でも同じ担当者の意見を聞くことで、自分の意見を補完し、より理解を深めることができた。元のグループに戻った時には自分の言葉で説明をすることができていた。また、担当者による補完が行われるので、自分の理解度や習熟度に合った学習を進めることもできた。

イ 自分の学習進度や習熟度に応じて選択できる授業づくり【手だてⅠ－1に対応】

「マスメディアと世論」の実践では、4つの新聞記事を用意したと前述したが、それぞれ文字数や興味は異なる。生徒自ら選択させることで、自分のレベルに合った学習活動を行うことができた。また、授業のまとめについて教科書太字を【 】とし、それ以外を〔 〕としている【資料4】。【 】の語句は必ず自力でまとめを行い、〔 〕は班の協力を得てよいこととしている。学習に苦手意識をもつ生徒でも自身の目標を設定することで、意欲的に学習を進めることができた。

1. 内閣の仕事	
◇【内閣】…行政機関の仕事を監督する組織	
〔閣議〕…閣内閣の仕事を決定する	
〔内閣総理大臣〕と〔国務大臣〕とで組織される	
首相の任命・解任は国会議員	

【資料4】 ワークシートの記述②

ウ 疑問を誘起させるための授業の導入【手だてⅡに対応】

ネットミームや時事問題など生徒が話題にしていることをキャッチし、導入に取り入れた。本単元においては生徒の話題にも上がっていた、政党の総裁選や「It's media」として広がった風刺画像を導入に用いることで、自発的かつ自然に疑問を誘起することができた。

5 研究の成果と課題

(1) 成果

実践後に小学校6年生の児童25人を対象に4段階評価のアンケート調査を実施した。

ア 手だてⅠ－1

個別最適な学びについては、調べる方法と調べたことをまとめる方法に関する質問をした。

調べたことをまとめる方法についての質問では、9割以上の児童が、「そう思う」や「ややそう思う」と回答しており、学習方法を選択できたことで、それぞれの特性を生かしやすかったと考えられる【資料5】。実際に授業の様子を見ると絵を描くことが得意な児童はノートを選択したり、字を書くことが苦手な児童はタブレット端末を選択

調べたことをまとめる際にタブレットとノートを選ぶことができたので、学習を進めやすかった。
(回答者：25人)



資料5 アンケート結果①

したりすることで、いつもより多くの情報を調べてまとめる様子が見られた。

調べる方法についての質問では、8割の児童が資料集やインターネット、本を使って調べることができたと感じている一方で、2割の児童は「あまりそう思わない」と回答している【資料6】。インターネットで検索する際、どのようなワードで検索すればよいのか分からなかったり、自分が知りたい情報がどこに載っているのか分からなかったりする児童にとっては、調べる方法を選択できることが学習を容易にすることにつながらなかったと考える。

協働的な学びについては、「他の人と意見を伝え合うことで、よりいろいろな面から考えることができた」と答えた児童が、全体の8割以上を占めている。『天下統一により貢献した武将』について他の人と意見を伝え合うことで、自分では気付かなかったことにも気付くことができた」という質問に8割以上の児童が「そう思う」や「ややそう思う」と回答することにつながったと考えられる【資料7】。このことから、手だてⅠ-1のように個別最適な学びと協働的な学びを取り入れることで、より深い学びを実現することができると考える。

イ 手だてⅠ-2

個別学習で得た知識を発表して終わるのではなく、そこから得た知識や更なる疑問を次の活動へとつなげる「深まりの一手」を行ったことで、子どもたちをより深い学びへと近づけることができたと考える。

ウ 手だてⅠ-3

ジグソー法は協働学習を前提に成り立つ学習活動であり、分担する課題の数によっては班員全員が役割をもつことができた。また、苦手意識をもつ生徒にも他生徒のアドバイスが補完的な役割を果たし、自分のペースで学習を進めることができた。ただし、グルーピングによっては交流が停滞することもあるので、意図的な生徒配置をすることでより効果を発揮すると考える。

エ 手だてⅡ

「振り返りに書いた調べたいことから学習問題や学習計画を作ったので意欲的に学習することができた。」という質問では、23人の児童が「そう思う」や「ややそう思う」と回答し、全体の9割以上を占めた【資料8】。児童の興味・関心に基づいて学習問題を設定することで、児童の自ら学ぼうとする姿勢を引き出すことができたことから、手だてⅡは有効であったと言える。

(2) 課題

ア 導入の工夫 指導場面の精選

個別最適な学習や、協働的な学習を進めるために、児童が調べたり協議したりする時間をなるべく多く確保するべく、第1時の教科書の内容確認をやや簡略化して行った。その結果、第2～3時と進んでいくにつれて、学習理解度の低い児童が、内容を深めづらい課題設定を行ってしまっており、それにより個別最適な学習や協働的な学習を進めづらくなってしまった。

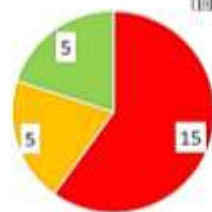
全ての子どもが単元の目標を達成できるよう、全体に指導する場面をより充実させて、子どもが疑問をもったり考えを深めていく素地を養ったりすることが必要であることが分かった。そして、全体に指導する場面、協働的な学習が必要な場面、個別に学習を進める場面を効果的に組み合わせることで単元を設計していく必要がある。

イ 環境整備

アンケートの結果にあるように、2割の児童は調べる際に方法を自分で選択できたことが学習のしやすさにはつながらなかったと回答している。今回の授業では、参考図書資料は自治体の提供する電子図書館で読むことができる本に限られており、インターネットより本で調べたい児童は困り感を抱えていた。本の種類を増やしたり、欲しい情報が手に入りそうなウェブページを紹介したりすることで、より個別最適な学びが実現したのではないかと考える。

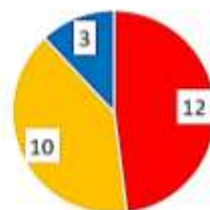
今後も、子どもたちの興味や疑問を大切に、学びを深められるような社会科の授業の実現をめざして、研究を続けていきたい。

一人で調べ学習をする際に、教科書だけでなく資料集やインターネット、本も使うことができたので調べやすかった。
(回答者：25人)



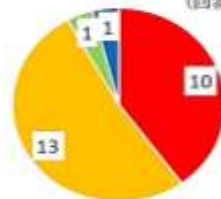
資料6 アンケート結果②

「天下統一により貢献した武将」について他の人と意見を伝え合うことで、より色々な面から考えることができた。
(回答者：25人)



資料7 アンケート結果③

振り返りに書いた調べたいことから学習問題や学習計画を作ったので意欲的に学習することができた。
(回答者：25人)



資料8 アンケート結果④